

女性とコミュニティ活動 ナマエンディ・グレイス（ウガンダ）

女性は、生産活動と性および生殖に関する活動、双方に携わっています。生産活動はコミュニティや国家の発展、国家収入に寄与するもので、漁業、石の切出し、炭売り、店舗・飲食店店員、作物栽培、畜産、家禽(かきん)飼育などの経済活動があります。また、会計士、医師、弁護士、個人秘書、教師、伝統的な治療士、家政婦、音楽家、民生事業員、宗教活動、その他数多くの職業もその活動に含まれています。

ウガンダでは、性および生殖に関する活動に従事しているのも女性です。これには、地域の福祉活動も含まれますが、例えば、出産、授乳、育児、料理、水汲み・焚き木集め、掃除、洗濯・アイロン掛け、家財道具の手入れ、夫の世話などがあります。残念なことに、これらの仕事は目立たず、男性やコミュニティから正しく理解されていません。

ウガンダのコミュニティで活動する女性たちは、優れた経済人であるといえます。主要道路沿いでの鶏肉、牛肉、ジャガイモ、焼きカッサバ売り、地元市場への古着の卸し、炭売り（ただし、伐採と炭焼きは男性）、バナナ売り、その他の食料品や地物のジュースの加工などの商業活動を行っています。こういった仕事による収入で、女性は男性の収入を補い、子供の学費、食費、衣料費など、必需品の支払いにあててきました。こうして家族の生計に役立っているおかげで社会から取り残されることなく、女性の家庭内での地位を押し上げる結果となっています。

女性はコミュニティの共同作業にも参加します。通路や道路、市場の清掃などです。無料奉仕する人もあれば、それで生活費を得る人もあります。こういった作業のおかげで失業状態をまぬがれます。以前はこの種の仕事は男性だけのものでした。しかし女性がこういった作業をするようになってから、商業施設や市場が全般的に清潔になり、公衆衛生が改善しています。

女性は宗教的活動にも携わっており、いくつもの宗教施設で説話をしたり、案内係を務めたりしています。司祭や牧師、大聖堂参事会員、シスターを任されている女性が大勢います。多くのカトリック教会では、シスターが、聖体(せいたい)拝領(はいりょう)（ミサで行う儀式）をとり行う神父の手伝いをします。また、女性が修道会に福音の伝道をするという宗派もあります。高名な女性宗教的指導者のなかには、ナムテビ・イメルダやジャネット・ムセベニ大統領夫人もいます。

相談業務に携わる女性もいます。その内容は、夫婦や家族間の問題から、エイズ／HIVの犠牲者や、紛争地域で心に傷を負った子どもたち、職を失った人びとの悩みにまでわた

ります。人びとが考えを立て直し、状況に立ち向かうための手助けをします。女性たちは、自分自身もつ共感の心や思いやりを生かして、優秀なカウンセラーとして活躍してきました。

女性は、人びとの問題を扱うことで一歩前進したといえるでしょう。例えば、ウガンダの伝統治療士の長である、ママ・フィーナのような、女医がそうです。彼女たちは、求職者や、不妊女性、性的不能男性、失われた愛を取り戻したい人などの問題を解決します。彼女たちは、人びとの問題を解決することで収入と評判を得ています。もともとは、この仕事は男性のものでしたが、女性がするようになりました。

女性は、経済や福利の発展に結びつくニギナ（物品の融通会）も行います。これは、家庭同士の一体感、連帯感を生み出し、勤勉性を向上させます。女性たちはここで、会員や招待客から家庭用品を集めます。品物はコップや皿をはじめ、マットレス、毛布、冷蔵庫、ソファにまで及びます。

工芸品制作、洋服仕立、音楽・ダンス、演劇、カウンセリングなどの収益活動の技術を伝えることを目的に、村レベルで女性クラブが組織されています。また、例えば、家庭内の衝突をおさめるなどの生活技能や、家庭を運営していく上での基礎技術のようなものの訓練も受けることができます。こういった教育を受けることで、女性たちは自らのかかえる問題を明らかにして可能な解決法を見出すことができるようになり、社会には、結束・創造性・進取の気概が高まりました。

畜産、作物栽培、魚の養殖、園芸、花の栽培などの農業活動にも女性たちは従事しています。生産物は販売され、余剰分は自分たちで消費します。女性はそれで家庭を運営し、子どもの学費を支払い、養ってきました。これが男性の収入を補い、また、コミュニティ全体を発展させる一助ともなっています。



ニギナに集まる女性たち